

○広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム到達基準

平成 26 年 8 月 7 日

平成 28 年 8 月 18 日一部改正

たおやかで平和な共生社会創生プログラム会議承認

広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム到達基準

(目的)

第 1 広島大学大学院たおやかで平和な共生社会創生プログラム(以下「たおやかプログラム」という。)到達基準は、たおやかプログラムを履修する大学院生(以下「大学院生」という。)の学修目標に対して求められる成果を大学院生に明示することで、学修を促進するとともに学生の到達度に基づく教育改善の根拠とすることを目的とする。

(成果水準)

第 2 たおやかプログラムカリキュラムマップにおける学修目標に応じて、基礎到達目標及び成果水準を、別表に定める。

(審査時の水準)

第 3 博士論文研究基礎力審査委員会は、QE 審査時に、たおやかプログラムが定める成果水準以上であることを確認する。

(見直し)

第 4 到達基準は、たおやかプログラム学位審査委員会において必要に応じて見直し、たおやかプログラム会議に報告するものとする。

附 則

この到達基準は、平成 26 年 8 月 7 日から施行し、平成 26 年 10 月 1 日から適用する。

附 則

この到達基準の改正は、平成 28 年 8 月 18 日から施行する。

(注)

- 1 学修目標：プログラム及び将来のキャリアにおいて学生が身につける知識・能力を示したもの
- 2 基礎到達目標：学修目標を具体的に細分化したもの
- 3 到達基準：基礎到達目標の到達度を 5 段階の成果水準で示したもの
- 4 成果水準：到達度の基準となる学修成果を段階的に示し身につけた力を可視化したもの

別表(第2項関係) ※QE1 到達基準を黄色, QE2 到達基準を緑色, QE3 到達基準を赤色の網掛けで示す

学修目標	基礎到達目標	成果水準0	成果水準1	成果水準2	成果水準3	成果水準4	成果水準5
自主性 与えられたフィールド・デマンドに単にソリューションを提供するだけでなく、	探求する意欲：知的好奇心を持って、オンキャンパスの知識だけでなく、オンサイトの知識を積極的に取り入れている	知識の獲得に興味が無い	自分の学問分野の知識を取り入れている	自分の学問分野に関わらず、新たな知識を取り入れている	知的好奇心を持って、自分の学問分野に関わらず、幅広く新たな知識を取り入れている	知的好奇心を持って、自分の学問分野に関わらず、幅広く新たな知識やオンサイトの知識を取り入れている	知的好奇心を持って、自分の学問分野に関わらず、幅広く新たな知識やオンサイトの知識をもって、地域の課題解決に取り組んでいる
地域社会において文化や技術が双方向に高め合う新たなおやかな共生社会の枠組みを自ら提案し、創生する能力	倫理：平和を希求する精神を持って、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解する 発信力：地域課題に応じた解決策の提案を効果的に伝える	研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果を意識していない	研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解している	研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解している	平和を希求する精神をもって、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解している	平和を希求する精神をもって、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解し、地域社会に貢献している	平和を希求する精神をもって、研究活動が社会や自然に及ぼす影響や効果、責任を理解し、平和共生社会の創成に貢献している
実行力 異なるバックグラウンドを持つ集団組織の中で解決策を実行する 具体的計画を企画立案し、代替案を客観的に分析・評価し、他者と交渉し、チームを統括し、倫理観を持って成し遂げる能力	課題発見：地域の解決すべき課題を見つけている 計画実行：目的と目標を設定し、計画に従って確実に実行する 検証：研究・活動の結果について、点検と評価を正しく実施し、次期計画へ反映する	提示された課題を正しく理解できない	提示された課題を正しく理解できる	地域の現状と目標の乖離を把握し、その間にある課題を見つけている	地域の現状と目標の乖離を把握し、その間にある解決すべき課題を見つけている	地域の現状と目標の乖離を把握し、その間にある解決すべき課題を整理・構造化している	複数の地域の解決すべき課題を比較し、その共通点や相違点を見つけている
		目的と目標が不明瞭なまま行動をしている	目的と目標を設定しているが、実現可能性が低い計画で、実行できていない	目的と目標、計画を設定し実行している	目的と目標、計画を設定し、計画に従って実行している	目的と目標、計画を設定し、状況に応じた最善の方法で実行している	目的と目標、計画、方法について、文化・習慣・価値観等の変化に応じて、最適なアプローチを選択している
		結果の点検・評価をしない	結果を点検・評価を実施しようとしている	結果を点検・評価を実施している	結果の点検・評価を、計画的に実施している	結果を計画的に点検・評価し、次期計画への反映を行っている	結果を計画的に点検・評価し、異なる学問分野・文化・習慣・価値観等をもつ相手からのアドバイスも踏まえて、次期計画への反映を行っている

学修目標	基礎到達目標	成果水準0	成果水準1	成果水準2	成果水準3	成果水準4	成果水準5
多角的思考力 人文社会分野と科学技術分野の学識に基づき、地域が抱える具体的課題からフィールド・デマンドを俯瞰し、多様な視点・アプローチから実行可能な解決策を柔軟かつ迅速に見出す能力	傾聴力：他人の意見を聞き、正しく理解し、尊重する	相手の意見を聞くことができず、理解しようとしていない	相手の意見を理解している	相手の意見を十分理解している	自分と異なる意見を含めて、相手の意見を十分理解している	自分と異なる意見を含めて、相手の意見を十分理解し、尊重している	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を把握したうえで、多様な意見を十分理解し、尊重している
	地域文化理解：異なる文化・習慣・価値観等を理解している	異なる文化・習慣・価値観等の存在に理解を示さない	異なる文化・習慣・価値観等の存在を意識し、理解しようとしている	異なる文化・習慣・価値観等を理解し、受け入れている	異なる文化・習慣・価値観等を理解し、受け入れるとともに、自らの文化・習慣・価値観等を伝えている	異なる文化・習慣・価値観等の理解し、地域文化の維持・発展に取り組んでいる	異なる文化・習慣・価値観等を理解し、地域文化の維持・発展に貢献している
	分野融合：異なる学問分野の理解を理解している	異なる学問分野を意識していない	異なる学問分野を意識し、理解しようとしている	異なる学問分野を理解し、受け入れている	異なる学問分野を理解し、受け入れるとともに、自らの学問分野を伝えている	異なる学問分野の相互理解を得て、学問分野の発展と融合に取り組んでいる	異なる学問分野の相互理解を得て、適切に対応し、学問分野の発展と融合に貢献している
	論理展開：論理的に自分の意見や手順を展開できている	支離滅裂な論理展開をしている	課題を整理・構造化しようとしている	課題を整理・構造化している	課題を整理・構造化し、自分の意見や手順を論理的に展開している	課題を整理・構造化し、自分の意見や手順を論理的に展開し、自分と異なる意見を持つ相手からも十分な理解を得ている	課題を整理・構造化し、自分の意見や手順を論理的に展開し、自分と異なる意見を持つ相手、地域・国際社会からも十分な理解を得ている
創造力 条件不利地域の制約条件のもとで、分野融合の知識を総動員して、フィールド・デマンドに適応した科学技術やそれを支える政策・制度を開発し、新たな地域文化の創生を誘う能力	協働：お互いの考えを尊重し、信頼関係を深める	チームで協働できず、身勝手な行動をしている	チームに参加するが、自ら動くことしない	チームに参加し、目的を理解し達成するために行動している	チームに参加し、目的を達成するために、異なる学問分野・文化・習慣・価値観等をもつ相手の考えを尊重して行動している	チームに参加し、目的を達成するために、異なる学問分野・文化・習慣・価値観等をもつ相手の考えを尊重し、主体性を持って行動している	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を有するチームに参加し、目的を達成するために、リーダーシップを持って行動し、お互いを尊重した信頼関係を構築している
	共創力：異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を有するチームにより、相乗効果を生み出している	チームで協働できない	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を有するチームで活動している	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を有するチームで活動し、成果を得ている	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を有するチームが活動し、分野融合による成果を得ている	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を有するチームが活動し、相乗効果を生み出し、地域文化に貢献している	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等を有するチームが活動し、相乗効果を生み出し、地域文化や多文化共生に貢献している
	発想力：多文化共生に貢献する新しい発想を生み出す	既存の考え方に固執する	新しい考え方を持とうとする	自分の知識のもとで、新しい考え方を持っている	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等の知識を活用し、新しい発想を生み出している	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等の知識を活用し、新しい発想を生み出している	異なる学問分野・文化・習慣・価値観等の知識を活用した新しい発想で、地域文化に貢献している

学修目標	基礎到達目標	成果水準0	成果水準1	成果水準2	成果水準3	成果水準4	成果水準5
専門性	情報収集力：信頼性が高い、必要な情報を入手している	自分が必要な情報がわからない	自分が必要な情報を理解しようとしている	自分が必要な情報を理解している	自分が必要な情報を理解し、その情報を入手・収集する方法を知っている	自分が必要な情報を理解し、その情報を適切に入手・収集している	信頼性が高い自分が必要な情報を、適切に入手・収集している
	学習：多様な学問分野の知識や技術を深く習得している	新しい知識や技術を修得しようとしていない	自らの学問分野の知識や技術を習得しようとしている	自らの学問分野の知識や技術を習得している	異なる学問分野の幅広い知識や技術を習得している	異なる学問分野の幅広い知識や技術を深く習得している	多様な学問分野の幅広い知識や技術を深く習得し、新たな知の発想につなげている
	語学力：研究に適した言語の運用能力を有している	英語で簡単な日常会話や質問を理解できない	英語で簡単な日常会話や質問を理解できる	英語で日常生活において、困らないレベルでの意思疎通ができる	英語で学習や研究において適切なコミュニケーションができる	英語で学習や研究において十分なコミュニケーションができ、議論の内容が大まかに理解できる	英語で学習や研究において、専門分野の高度な専門書を読んで理解でき、議論の内容が正確に理解できる

語学力の目安

学修目標	基礎到達目標	成果水準0	成果水準1	成果水準2	成果水準3	成果水準4	成果水準5
専門性	語学力：研究に適した言語の運用能力を有している	TOEIC 5-465 TOEFLiBT 47	TOEIC 470-595 TOEFLiBT 48-61	TOEIC 600-725 TOEFLiBT 62-78	TOEIC 730-855 TOEFLiBT 79-97	TOEIC 860-895 TOEFLiBT 98-101	TOEIC 900-990 TOEFLiBT102-120